

ノート PC 必携化-金沢大学における生協との協力体制-

佐藤正英・森祥寛・松本豊司
Email: sato@cs.s.kanazawa-u.ac.jp

金沢大学総合メディア基盤センター

◎Key Words ノート PC, 必携化, 生協との連携

1. はじめに

金沢大学は一学年 1800 名程度の規模を持つ中規模総合大学である。学士課程においては学域・学類制を導入している。学域は大きく人間社会学域, 理工学域, 医薬保健学域と 3 つの学域に分かれている。各学域は複数の学部をまとめて少し大きくした教育組織である。

各学域は, 例えば人間社会学域では人文学類, 経済学類などのように, 専門により細かく 16 学類に分かれている。学類はちょうど学部と学科の中間の規模の教育組織である。文系学類と理系学類が 6 学類, 医薬系学類が 4 学類と, 理系・文系ともにバランスよく学生が在学している。

本学では, 平成 18 年度から新入生に入学時にノートパソコン(以下, ノート PC)を用意してもらう取組を「ノート PC 必携化」と呼んで進めている。必携化されたノート PC を学内および自宅でも活用してもらうために, 教育, 学内設備, サービスも充実させている。一年生の前期には全学必修で「情報処理基礎」という科目を開講している。この科目では, 大学内でのネットワークの使い方や, 基本的な情報倫理教育, および各学類において必要な情報リテラシーについて実習と講義により学習する。学内には金沢大学学術統合ネットワークシステム(通称 KAINS: Kanazawa university Academic Integrated Network System)が整備されており, 学内のいたるところで無線 LAN が使用できる環境が整えられている。また, 「アカンサスポータル」と呼ばれるポータルサイトを整備している。このポータルサイトを通して, 呼び出しや休講情報などの情報の取得や履修登録などのサービスの利用を学外からでもできるようにしている。

これらの施策は, ノート PC を十分に活用してもらうために進められた。しかし, 今では学生全員が個人の PC を持っているということが前提にできるので, 多くの情報施策が進められるという側面がある。ノート PC の必携化は本学の情報施策の重要な柱であるが, 高等学校での情報教育は様々である。一年生の前期に全学必修の情報の授業を開講するとしても, PC に対する知識も様々である新入生に対してノート PC の使用方法を丁寧に教え, 問題が起きた時に親切に教えて, 必携化されたノート PC を有効に使ってもらい, ノート PC 必携化を有益な取り組みとするのは容易ではない。そのような取り組みを進めるには, 取組を推進するうえで協力支援していただいた金沢大学生協同組合(以下, 金大生協)の役割が大きい。以下では, 金大生協がどの

ように取り組みにかかわっているのかを紹介したい。

2. 金大生協の役割

ノート PC の必携化に果たす金大生協の役割は, 大きく, 金沢大学オリジナルモデル策定作業での協力, 入学時の学生支援での協力, 入学後の学生支援での協力の 3 つに分けられる。その具体的な内容について以下で紹介する。

2.1 金沢大学オリジナルモデル策定作業

金沢大学のノート PC の必携化においては, 学生に準備してもらうノート PC に関して, 必要最低限の要件を決めている。学生は, この要件を満たす範囲で, 自由に選んで, ノート PC を準備してもらうことになる。要件は非常に緩いものである。例えば, 容易に持ち運べる携帯型のパソコンであること, 無線 LAN ネットワークに接続できること, ハードウェアキーボードが使えること, などである。このような要件については, 各学類の代表からなる仕様策定委員会を開催し, その委員会で議論した後決定する。

金大生協が関わるのは, この要件が決定した後である。要件を満たしていれば, 学生にどのようなノート PC を入学時に用意してもらってもかまわない。しかし, 合格発表があり入学手続をする際になって初めて金沢大学でノート PC の必携化をしているということを知る新入生も多い。入学直前に準備するべきことが多くて, ノート PC のことまで考える時間がない学生もいると想像される。そのために, 目安となる金沢大学オリジナルモデルのノート PC を生協で販売している。

オリジナルモデルのノート PC をどこで販売させるかということについては, 学内での議論があった。金沢大学は丘陵地に存在し, 自然のなかに孤立している。市内の家電量販店等などからも遠い。故障が起きた際に学生の立場も理解したうえで, 丁寧にサポートしてもらえる業者を考えて, 金大生協にオリジナルモデルの提案をしてもらうことになった。

仕様策定委員会は 7 月～8 月前半に行われて, 次年度の必携 PC の必要条件が決まる。金大生協では, この要件を受けて, 金沢大学オリジナルモデルとして提案する機種を選定する。この数年では, 全国大学生協連のモデルに加えて, 金沢大学独自の条件を付けて金沢大学オリジナルモデルとして 10 万円程度の機種と少し高めの機種の 2 機種を 10 月ごろに提案してもらっている。仕様策定委員会では, この提案機種について検討する

ことになる。

2.2 入学時の学生支援での協力

新入生の入学時に学生支援で金大生協に協力していただいていることに、必携PCのセキュリティ点検会の開催がある。先に述べたように、金沢大学のノートPC必携化の取り組みでは、学生は必要要件を満たしていればどのような機種のPCを準備してもらってもかまわない。しかし、学生は自分で適切な機種を選んだつもりでも、必ずしも条件を満たしている機種を持ってこない場合もある。また、学内ネットワークに接続するためには、ウィルス対策やセキュリティ対策がきちんと機能していないといけませんが、設定が適切にされていなかったり、ソフトウェアが準備されていなかったりすることもある。さらに、金沢大学ではマイクロソフト社との包括ライセンス契約をしており、情報処理基礎の情報リテラシーの授業では、マイクロソフト社のオフィスを用いて授業している学類が多い。しかし、オフィスのインストールがされていなかったり、設定がちゃんとなされていなかったりすることもある。

このような様々な状態にあるノートPCを点検して、必要に応じて設定したりソフトウェアのインストールをしたりして、授業開始時には、ある程度は状態が揃えられて授業を円滑に進められるようにしているのがセキュリティ点検会である。金大生協では、本人から敢えて連絡を拒否する学生や、入学後様々な理由で対応する必要がない学生を除くと、ほぼ100%の学生についてセキュリティ点検を行っている。

この点検会で、PCの初期不良等が見つかり、授業開始後の影響を最小限に抑えられる事例も毎年数件見つかっている。また、点検会の日程に都合がつかない学生については、別途日にちを調整して対応していただくなど、学生の都合を配慮した点検会の実施を行っている。

2.3 入学後の学生支援での協力

新入生が入学後にも、学生のPCの相談の窓口の1つとしての役割を果たしてもらっている。学生が持ち込む相談は必ずしも金大生協が処理するべきものではないものや処理できないものもある。そのような場合には、大学の相談窓口等への誘導などを行っている。

また、オリジナルモデル購入者に対しては、パソコンメーカーと連携をして、定期的なメンテナンス会を開催している。メーカーの方にパソコンの状態を診断してもらうだけでなく、学生にバックアップの取り方などの講習を行ったりもしている。

3. まとめ

金沢大学で行っているノートPCの必携化において、金沢大学生協同組合との連携について述べた。主に、金大生協に行ってもらっている内容について紹介した。

紹介した内容については、本来は大学の業務として行うべきものもあるかもしれない。例えば、パソコンのセキュリティ点検会などは、入学時の行事として大学が行うべきものかもしれない。もちろん、このような会を開くことで、学生と学生との信頼関係の構築

に役立っているのかもしれないが、このような煩雑なことを大学の代わりに生協が行ってもらうことで、大学としては大分助かっている。

平成18年度のノートPC必携化の開始から現在までノートPCの必携化がまがりなりにも継続できたことには、金沢大学生協同組合と協力体制を構築できていることが大きい。さらに、学生が必携化されたノートPCを持っていることを前提として様々な情報施策が実施できたことには、間接的にはこの協力体制が一定の役割を果たしているとも考えている。

謝辞

本発表を行うにあたり、科学研究費 挑戦的萌芽研究「性格特性を考慮した学習スタイルパターン適応型学習支援システムの開発」(研究課題番号25540161)および金沢電子出版との共同研究の支援を受けた。ここに記し謝辞とする。